平成23年5月31日
溶学研第 23－13 号

委 員 各 位

社団法人 溶 接 学 会
軽構造接合加工研究委員会
委 員 長　 里中　 忍
JIW第3委員会
委 員 長　 里中　 忍
（公印省略）

開 催 通 知

第93回軽構造接合加工研究委員会を下記の通り開催いたしますので、各位お繰合せの上、ご出席下さいますようにご案内申し上げます。なお、ご出欠は回答欄にご記入の上、e-mail（s_kogure@tt.rim.or.jp）にて、事務局に平成23年6月10日（金）迄にお知らせ下さい。

記

1. 日　時

平成23年6月17日（金）　10:40～16:00

2. 場　所

キャンパス・イノベーションセンター東京　国際会議室　（東京・田町）
（案内図をご参照下さい）　住所：東京都港区芝浦 3-3-6

3. テーマ

継手構造のあり方と強度評価及び接合に関わる解析

4. 幹事会のお知らせ

委員会終了後に幹事会を開催いたしますので、役員および幹事（または代理）の方はご参集下さいますようお願い申しあげます。場所は 5 階リエゾンコーナーです。

5. 昼食会のお知らせ

昼食時に，同会場　5 階リエゾンコーナーにて立食形式の昼食会を行います．
是非ご参加下さい．出欠についてご連絡下さい。
参　加　費：￥500
支払方法：当日現地にてお支払い下さい．領収書をご用意しております．
　　　　（なるべくおつりのないようご用意お願い致します）

☆出席人数が一事業所2名を越えますときは、3人目から、資料費として1名につき
2，000 円を納入願います。なお、その場合は、あらかじめ返信メールにてお知らせ下さい。

第93回軽構造接合加工研究委員会プログラム

－継手構造のあり方と強度評価及び接合に関わる解析－

１．日　時　：　平成23年6月17日(金)　10時40分～16時00分

２．場　所　：　キャンパス・イノベーションセンター東京(CIC 東京)1 階　国際会議室

３．プログラム(都合により，若干変更される場合がありますので，予めご了承をお願い申し上げます．)

時間	題　　目	講　演　者
10:40～11:20	3 次元 CAE を利用した片側スポット溶接における多点溶接性影響因子の検討 (MP-497-2011)	住友金属工業(株) ○西畑ひとみ、菊池庄太 福本　学、内原正人
	片側スポット多点溶接時の分流現象への影響因子を調査するとともに、改善法を検討した。また、3 次元 CAE を利用し、既打点の有無や打点ピッチによる溶接点・既打点への分流割合の変化を計算した。	
11:20～12:00	高張力鋼板抵抗スポット溶接継手の引張せん断特性に及ぼす硬さ分布の影響 (MP-498-2011)	JFE スチール(株) ○沖田泰明、池田倫正、遠藤茂 Autonomous University of Zacatecas V.H. Baltazar Hernandez University of Waterloo S.S. Nayak and Y. Zhou
	590～980MPa 級高張力鋼板において抵抗スポット溶接部の引張せん断試験を行い、界面破断からプラグ破断に変わる臨界ナゲット径に及ぼす硬さ分布の影響について評価した結果について報告する。	
12:00～13:20	表彰式＆昼食会	
13:20～13:40	委員会(軽構造接合加工研究委員会・JIW 委員会)議事	
13:40～14:20	高張力鋼のスポット溶接継手の三次元的疲労き裂進展挙動観察ならびに疲労特性に及ぼす荷重変動の影響 (MP-499-2011)	広島大学 ○菅田　淳
	高張力鋼のスポット溶接継手の疲労き裂進展挙動を逐次断面観察により 3 次元的に観察を行い、疲労特性を明らかにすることを試みた。また，疲労特性に及ぼす荷重変動の影響について検討を行った。	
14:20～15:00	ホットワイヤ・レーザ溶接法による高張力薄鋼板広間隙重ね溶接技術の開発 (MP-500-2011)	広島大学 ○門井浩太、山本元道、 篠崎賢二、深堀貢、北原陽一郎
	ホットワイヤ・レーザ溶接法を用いて，自動車用 980MPa 級高張力鋼板(板厚 1mm)の広間隙重ね溶接技術の開発を試みた。高速度カメラによる詳細な溶融現象・ビード形成現象の把握を行い，適正溶接条件を導出した。適正溶接条件を用いると，板間隙 1mm を充分架橋する良好な継手が得られ，500～600MPa の安定した引張せん断強度を示した。	
15:00～15:20	休　　　憩	
15:20～16:00	粒子法による FSW シミュレーションモデルの開発 (MP-501-2011)	大阪大学 ○宮坂史和、吉川　岳、平田好則 (株)東芝 片山義紀、布施俊明
	FSW 中におけるツールまわりの被接合金属の挙動を、粒子法を用いて解析する。粒子法を用いることで、現象に支配的となる熱伝達を精度良く解析することができる。また得られた粒子の挙動をみることで、塑性流動中の金属の挙動が直感的にも分かりやすい。塑性流動中の金属は高粘性流体と近似する。粘性係数は温度とひずみに依存する関数とする。	
16:00～17:00	幹　事　会	

※○：講演者

■ キャンパス･イノベーションセンター東京（CIC 東京）1 階　国際会議室　　案内図

［所在地］

東京都港区芝浦 3-3-6　http://www.cictokyo.jp/

［交通機関］

ＪＲ山手線・京浜東北線　田町駅（徒歩１分）
都営三田線・浅草線三田駅（徒歩５分）